第５章　拠点整備にかかる施設の検討

１．最適な事業用地の検討

（１）県東部地域における整備地域の検討

以下では、拠点整備に係る最適な事業用地の検討にあたり、平成 30 年度調査において、岩国市が県東部地域における中核都市としての重要な意義を有すると整理したことを踏まえ県東部地域における整備地域について検討を行う。

①交通の利便性による整備地域の検討

山口県東部地域において、交通の利便性を勘案すると岩国錦帯橋空港及びＪＲ岩国駅を有する岩国市が東部地域における中心地と考えられる。

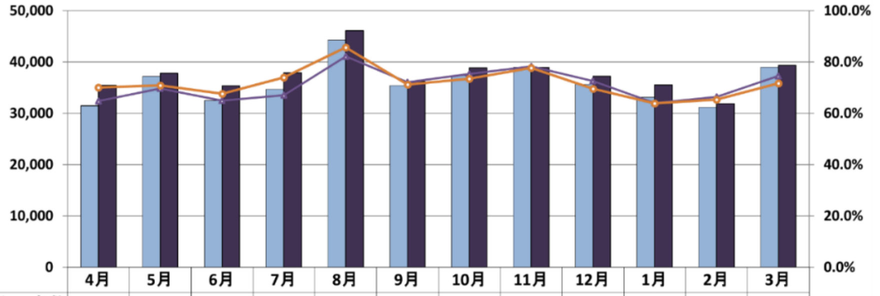
近隣県（特に広島県）からの利用者が多い JR 岩国駅については、新駅舎整備（駅舎の橋上化）により駅利用者及び駅周辺利用者の使い勝手が向上しており、平成 24 年 12 月の岩国錦帯橋空港開港の効果により、首都圏からの人の呼び込みについても岩国市が中心的な役割を担っている。

【岩国錦帯橋空港の定期便利用者数】

路　線	区　分	30 年度	前年度比較	
			29 年度	増減
東京線・沖縄線合算	利用者数	522,703 人	503,388 人	19,315 人 +3.8 %
	利 用 率	69.9 %	69.3 %	+0.6 ﾎﾟｲﾝﾄ
東京（羽田）線	利用者数	450,389 人	430,727 人	19,662 人 +4.6 %
	利 用 率	71.8 %	71.1 %	+0.7 ﾎﾟｲﾝﾄ
沖縄（那覇）線	利用者数	72,314 人	72,661 人	△347 人 △0.5 %
	利 用 率	60.4%	60.5 %	△0.1 ﾎﾟｲﾝﾄ

（出典：山口県資料　平成３０年度における県内２空港の利用状況について）

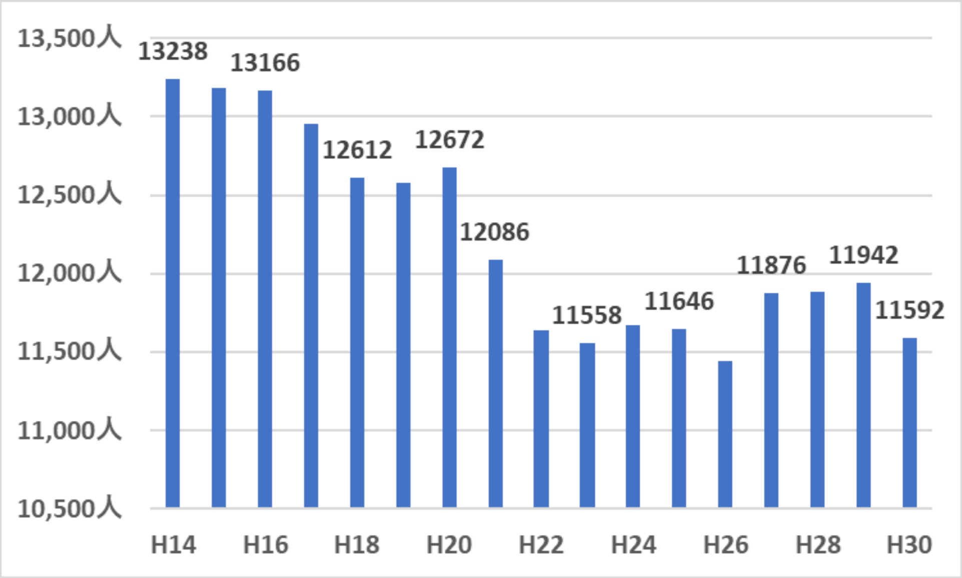
【岩国錦帯橋空港の国内定期便（東京・羽田線）月別利用状況】



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
H29利用者数	31,474	37,205	32,431	34,669	44,293	35,417	37,370	38,974	35,611	33,136	31,165	38,982
H30利用者数	35,434	37,819	35,387	37,898	46,072	36,155	38,823	38,923	37,188	35,489	31,835	39,366
H29利用率	64.7%	69.7%	64.9%	67.0%	82.2%	72.1%	75.3%	78.3%	72.5%	64.0%	66.3%	74.5%
H30利用率	70.1%	70.9%	67.6%	74.0%	85.6%	71.2%	73.5%	77.7%	69.6%	63.8%	65.4%	71.7%

（出典：山口県資料　平成３０年度における県内２空港の利用状況について）

【JR 岩国駅の乗降客数】



（出典：岩国市「認定中心市街地活性化基本計画のフォローアップに関する報告」等を基に作成）

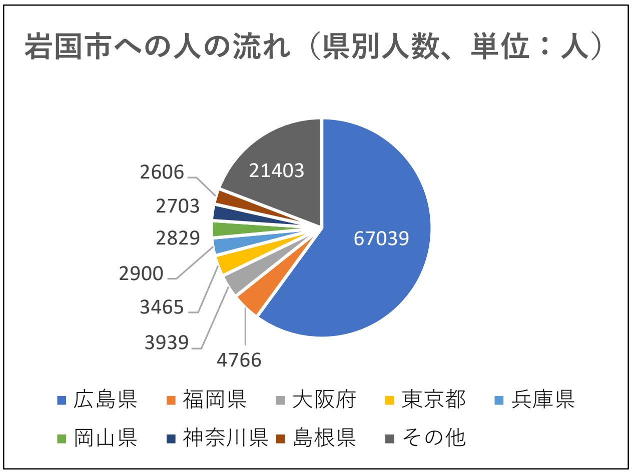
②他地域から岩国市への人の流れ

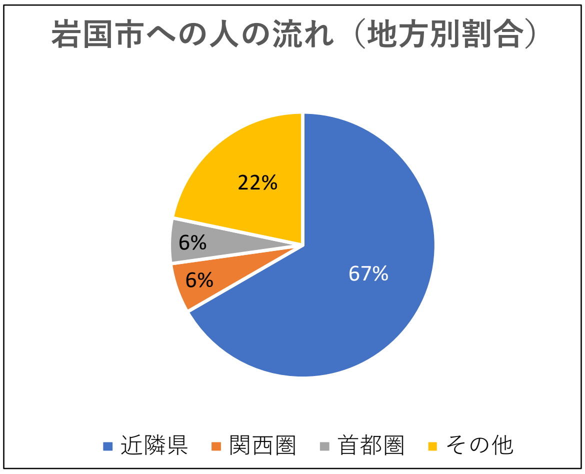
他地域から岩国市への「人の流れ」について、まず、他都道府県から岩国市への人の流れについて、RESAS（地域経済分析システム）の「滞在人口の地域別構成割合（都道府県→岩国市)」を活用し、特に「ビジネス利用者」に着目したデータ分析を行った。

滞在人口とは、指定地域の指定時間に滞在していた人数の月間平均値を表すもので、今回は県東部（岩国市）へのビジネス利用者の流れを把握するため、「指定地域を岩国市、指定時間を平日 14 時」とし、20～60 歳代毎の月間平均値を算出した後に、年間の総計値（2018 年）として算出した。

結果として、他地域から岩国市への「人の流れ（平日、20～60 歳代)」は、近隣県や首都圏、関西圏を中心に、「1 位：広島県」、「2 位：福岡県」、「3 位：大阪府」、「4 位：東京都」の順に多いことが確認できた。抽出データの全てがビジネス利用者とは言い難いが、抽出条件より多くはビジネス利用者であることが推測できる。

特に首都圏からの人の呼び込みとしては、平成 24 年 12 月の岩国錦帯橋空港開港の効果が大きい。また近隣県（特に広島県）からの利用者が多い JR 岩国駅については、新駅舎整備（駅舎の橋上化）により駅利用者及び駅周辺利用者の使い勝手が向上している。

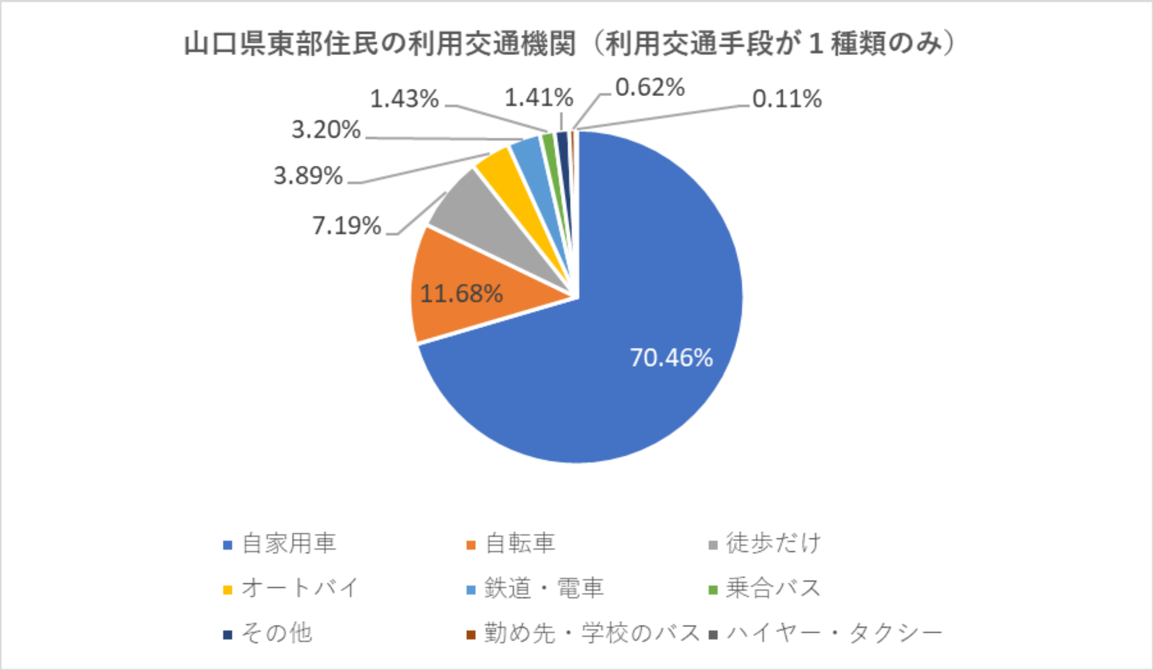




（出典：総務省 地域経済分析システム（RESAS）を基に加工・作成）

次に、県内他市町から岩国市への人の流れについて、平成 22 年国勢調査の従業地・通学地による人口・産業等集計をもとに移動手段の分析を行った。

結果として、岩国市の 15 歳以上自宅外就業者・通学者に占める利用交通手段別割合は、利用交通手段が 1 種類の者のうち、自家用車を利用している割合は 67.3%であり、同じく周防大島町では 72.8%、和木町では 54.9%である。また、周南市まで範囲を広げた場合、周南市 67.4%、下松市 71.7%、光市 78.8%、柳井市 74.3%、田布施町 82.3%、平生町 80.8%、上関町 68.7%である。このことから、県東部地域における主要な移動手段は、自動車であり、当施設利用時も自動車での利用が想定される。



（出典：平成 22 年国勢調査）

③岩国市中心部のエリア特性

岩国駅周辺の商店では、イズミ岩国店や中通り商店街内で古くから営業をしてきた店舗が閉店し、歩行者の通行利用が伸び悩むなど、人口減少の影響も出てきている。

一方で、岩国市の「令和元年度認定中心市街地活性化基本計画のフォローアップに関する報告」によると、岩国駅周辺整備事業によって、橋上駅舎及び東西自由通路が供用開始されたことなどにより、駅利用者の利便性の向上及びＪＲ岩国駅を挟んだ東西地域の交流が促進され、にぎわいが創出されている。また、東地区においては、民間事業者により交流施設などが整備されたこと及び新たに 2 棟のマンション建設が着手されるなど、駅周辺の整備に伴い、都市開発に向けた動きも出始めている。

【中心市街地の状況に関する基礎的なデータ（基準日：毎年度１月１日)】

（中心市街地区域）	平成 25 年度（計画前年度）	平成 26 年度（１年目）	平成 27 年度（2 年目）	平成 28 年度（3 年目）	平成 29 年度（4 年目）	平成 30 年度（5 年目）	平成 31 年度（最終年度）
人口	4, 484 人	4, 486 人	4, 497 人	4, 487 人	4, 537 人	4, 658 人	4, 714 人
人口増減数	△2 人	2 人	11 人	△10 人	50 人	121 人	56 人
自然増減数	△5 人	△18 人	△34 人	△21 人	△40 人	1 人	△11 人
社会増減数	3 人	20 人	45 人	11 人	90 人	120 人	67 人
転入者数	221 人	199 人	199 人	202 人	255 人	265 人	239 人

【基本計画における目標・実績値】

目標	目標指標	基準値	目標値	（参考）目標値の80%	最新値（数値）	最新値（年月）	達成状況
快適な交通環境の創出	①JR 岩国駅の乗降客数	11,646 人（H25）	13,470 人（H31）	13,106 人（H31）	11,592 人（H30）	H31.3	C
活力と魅力あふれる商環境の創出	②卸売・小売業、宿泊・飲食サービス業の事業所数	687 店（H24）	695 店（H31）	694 店（H31）	733 店（H31）	R2.3	A
〃	③本通商店街・中通商店街・中央通り商店街の空き店舗率	17.5%（H25）	11.8%（H31）	12.9%（H31）	14.3%（H31）	R1.12	B2
誰もが住み良い環境の創出	④歩行者等通行量（平日）	33,716 人（H22～25 の平均）	35,470 人（H31）	35,120 人（H31）	29,280 人（H31）	R2.2	C
〃	⑤歩行者等通行量（休日）	32,436 人（H22～25 の平均）	34,080 人（H31）	33,752 人（H31）	28,289 人（H31）	R2.2	C
〃	⑥イベント・教室等開催件数	5,296 件（H25）	6,140 件（H31）	5,972 人（H31）	5,477 件（H31）	R2.3	B2

注）達成状況欄　（注：小文字のａ、ｂ1、b2、ｃは下線を引いて下さい）

Ａ（計画した事業は概ね予定どおり進捗・完了。さらに、最新の実績でも目標値を超えることができた。）
ａ（計画した事業は予定どおり進捗・完了しなかった。一方、最新の実績では目標値を超えることができた。）
Ｂ1（計画した事業は概ね予定どおり進捗・完了。また、最新の実績では目標値の 80%を達成。）
Ｂ2（計画した事業は概ね予定どおり進捗・完了。一方、最新の実績では目標値の 80%には及ばず。）
ｂ1（計画した事業は予定どおり進捗・完了しなかった。一方、最新の実績では目標値の 80%を達成）
ｂ2（計画した事業は予定どおり進捗・完了しなかった。また、最新の実績では目標値の 80%には及ばず。）
Ｃ（計画した事業は概ね予定どおり進捗・完了。一方、最新の実績では目標値および基準値にも及ばなかった。）
ｃ（計画した事業は予定どおり進捗・完了しなかった。また、最新の実績では目標値および基準値にも及ばなかった。）

以上により、人口動向等の観点から、岩国市は東部地域において一定の中核的な役割を担っている地域であり、山口県東部地域における産業振興の支援機能の充実を検討する上では、当市を起点とした支援体制の構築という考え方が重要な視点になり得ると考えられる。

また、岩国市には域内のビジネス関係者に加え、首都圏や近隣市町などからビジネスに関係する来訪者も一定程度いることが推測され、こうした来訪者（滞在者）を利用者の一人として想定した施設整備（機能導入）は、東部地域における産業を入り口とした魅力の向上、にぎわい創出にも貢献すると考えられる。

岩国市の中心部に位置する岩国駅付近からは、隣接する和木町も含み市街地が形成されており、同駅は山陽本線、岩徳線、錦川清流線の結節点でもあり、駅周辺地区を中心に様々な整備・再開発事業が進展している。これを踏まえ、当支援拠点については、機能の東部地域への波及的な効果の観点からも、岩国駅近隣エリアにおける検討が望ましいと考えられる。

（２）検討候補地の選定

以上により、候補地の選定にあたっては、岩国駅近隣エリアにおける支援機能の構築が望ましいことが確認できた。そこで、以下では、具体的な検討候補地について、岩国駅近隣エリアに絞って検討を行う。

条件設定の考え方としては、徒歩圏内と考えられる岩国駅より半径 1 ㎞の範囲にあること、及び県東部地域における主要な移動手段は、自動車であり、当施設利用者の主な交通手段は自動車と想定されることから、主要道路に面し、敷地内または近隣に一定の駐車場が確保できることと設定した。

これに加え、当支援拠点は規模として延床面積 2,000 ㎡程度を想定していることから、この規模の施設整備に要する敷地面積を確保可能な用地であることが必要である。

また、土地利用の計画等から、当支援拠点を設置できる可能性が高いと思われることを条件に検討を行った。

これらの前提条件を満たすものとして、当該エリアにおいて改めて候補地を選定したところ、以下 2 つが検討候補地として挙げられる。なお、以下の検討候補地の評価・比較にあたっては、上記条件に係る優劣に加え、周辺の既存施設（ホール、駐車場等）の活用可能性や、支援機関との連携可能性についても評価項目とする。

①岩国商工会館敷地
②山口銀行旧岩国支店跡地

■　候補地

- 候補地Ａ：岩国商工会館敷地
- 候補地Ｂ：山口銀行旧岩国支店跡地

（出典：国土地理院地図を基に加工・作成）

（出典：国土地理院地図を基に加工・作成）